

秋の祭典、にぎやかに開催

10月6日、今年で38回目となる上ノ国町産業まつり(同実行委員会主催)が役場前駐車場で開催され、約2000人が訪れました。

近年まれにみる秋晴れに恵まれ、絶好のイベント日よりのイベントとなった産業まつり会場には、町内外22事業者が出店。店頭には、町内産の豚肉や果物、木工品などのほか、町内産新米やホタテの特売には秋の味覚をいち早く味わいたいという方々で溢れ、開始前から長蛇の列ができていました。

また、飲食店の店舗では、様々な料理が並び、特に漁協女性部のブースには海産物をふんだんに使った浜のお母さんの料理が午前中に完売するほどの人気となっていました。

このほか、上ノ国中学校の吹奏楽部による演奏、小学生を対象とした鮭のつかみ取りなどの催しも行われ、会場は活気に満ち溢れていました。



豊かな海は森づくりから

10月10日、上ノ国町日本海グリーンベルト構想推進協議会(花田英一会長)主催による「豊かな海づくりのための植樹祭」が目名地区で行われ、農漁業者や中高生など154人が参加しました。

この取り組みは磯焼けが進む本町沿岸部を豊かな海に復活させることを目的に平成18年から行われています。

会場では、参加者が例年活動に参加していることもあり、慣れた手つきで植樹作業を進め、約1時間かけてトチ、ミズナラなどの苗木を1000本植樹しました。

今回の植樹会場となった目名地区には目名川が流れており、参加者は、ここで育った苗木が森となり、その葉が養分となって川から海に届くことを期待している様子でした。



ラウンドアバウト運用開始

10月11日、大留交差点の改良工事が終了し、北海道で初となるラウンドアバウト交差点が大留地区にて運用開始となりました。

円形で信号がないという特徴を持つ同交差点ですが、進入は時計回りの一方通行となっており、環道内の車両や横断歩行者を優先しつつ、徐行で通行することとなり、退出時はウインカーを点滅させなければなりません。

この交差点の利点は、その形状からスピードが出せないため大事故に繋がりにくいことや、赤信号で止められることもないことから、常に通行できるこれまでと異なった交差点です。

当日は、まだ通行車が不慣れな様子で徐行していましたが、日が経つにつれて徐々に円滑な通行が見られるようになり、国道、道道、町道が接する交差点ですが、スムーズな通行が実現している様子でした。



地道な交通ルール順守

「人ひとりが繋げた4000日」

9月24日、大留交通安全協会(森田豊彦会長)主催による街頭啓発活動が大留地区国道沿いで行われ、旗振りや冊子配布などの啓発活動に勤しみました。

町内では交通安全週間などに合わせて、商工会や町内会などが各地区で啓発活動を積極的に実施しており、先月は秋の交通安全週間として、小中高生による呼びかけも行われていました。

こうした一つひとつの活動が実を結び、10月17日の交通死亡事故ゼロ連続4000日達成に繋がっています。この記録を1日でも長く継続するため、今一度気を引き締めて運転に臨みましょう。

